

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016 年 3 月 17 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	アジアⅢ講座 教授
氏名 Name	山根聡
専門分野 Academic Field	南アジア・イスラーム論、ウルドゥー文学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	パキスタンの「イスラーム性」に関する研究
<p>パキスタンは 1980 年代のイスラーム化政策によって、イスラームに対する冒涇が禁じられたが、同時に、イスラームを掲げる急進派に対する批判が困難な環境ができた、それが 2014 年末の小学校襲撃事件をきっかけに翌 2015 年 1 月に憲法が修正され、宗教を掲げる急進派の掃討作戦が開始された。すなわち、最近のパキスタンは宗教とテロの決別という大きな転換期にあり、その解明が今年度のテーマとなった。そこでまずアジア政経学会の『アジア研究』に「対テロ戦争期パキスタンの政治・社会における内的変化」(査読有)を 2015 年 7 月に発表した。また 2015 年 11 月には中東情勢研究会で「パキスタンにおける対テロ戦争と今後の課題」、12 月には現代インド研究プロジェクト「現代社会の政治と思想」研究会で「パキスタンにおける『国家行動計画 National Action Plan』の成果—イスラームとテロをめぐる内政の変化」という表題での報告を行い、これらの成果をまとめて、『国際情勢』紀要に「パキスタンにおける国家行動計画の成果と課題」(査読なし)を発表した。</p> <p>このほか、2015 年 6 月よりパキスタン政府の奨学金で 9 か月間ポスドクとして留学したムハンマド・アースィフ博士を受け入れ、同氏の文献解題 3 点を日本語に訳した。これらは京都大学の『イスラーム世界研究』(2016 年 3 月)に発表された。</p> <p>著作に関しては、現代インド研究プロジェクトの成果として、「愛国と愛教のはざままで」(三尾稔ほか編『現代インド 6—還流する文化と宗教』、東京大学出版会)を、新学術領域研究プロジェクトの最終報告書として長縄宣博氏との共著『越境者たちのユーラシア』(ミネルヴァ書房)を刊行させた。他に『NHK データブック 世界の放送 2016』(NHK 出版)のパキスタンの放送事情を執筆、これが刊行された。また岩波新書『世界の名前』の「パキスタン」の項を執筆、これが刊行された。</p> <p>ほかに、京都大学で開催された「NIHU プログラム・地域研究間連携研究推進事業「南アジアとイスラーム」・東京大学東洋文化研究所東洋学研究情報センター公募研究の研究会「南アジア都市居住の現在」(京都大学)において、「カスール市の構造について」を報告した。また、本学文学研究科竹中亨教授主催の国際ワークショップ“Great Confrontations”に参加し、報告“From “Who am I?” to “Who Should I be?”—Question of Self by an Indian Intellectual in Europe in the Beginning of the Twentieth Century”を報告した。</p> <p>本研究科の研究交流事業として、2015 年 12 月にはパキスタン・ムルターンのバハーウッドディーン・ザカリヤー大学の研究者を招聘し、京都大学、龍谷大学との共催で計 2 回の研究会を開催した。</p> <p>総じて、年度の研究計画に基づいた研究活動を行い、その成果を挙げることもできた。</p>	